

研究ノート

保育内容指導法『人間関係』における「ラベル活用」の実際 —一個と集団の学びのプロセスについての考察—

井上聖子（非常勤講師）・櫻井京子

（西九州大学子ども学部子ども学科）

（平成29年9月29日受理）

“Use of Labels” in Teaching Childcare Practices [Human Relationship]

—A consideration of individual and group learning processes—

Satoko INOUE, Kyoko SAKURAI

(Department of Children's Studies, Faculty of Children's Studies, Nishikyusyu University)

(Accepted September 29, 2017)

Abstract

In April 2018, Japan will implement a new preschool education system, which is a groundbreaking revision. Childcare workers play an important role in helping children acquire the basics of learning on their own. The establishment of trusted relationships that childcare workers learn in “human relationship” courses is becoming the core of children’s character-building. The cultivation of highly specialized childcare workers, who are also familiar with the challenges in child-rearing support, is expected in the future. However, the reality of childcare students is far from the kind of childcare worker that they should aspire to become.

This study highlights the effectiveness of the “use of labels” in classes as a method to break away from such a situation. It is important for the students to not only believe in the theories that they learned in class but also organize and absorb them as their views on childcare. This study reports factual findings after eight years of label use in classes. In addition, the study analyzes how the labels were used, identifies the challenges in label use, and explores the significance and possibilities based on a questionnaire survey conducted with the students.

Key words : Active Learning アクティブラーニング
Feedback label 感想ラベル
Newspaper label ラベル新聞
Illustration 図解
Qualities and skills of childcare workers 保育者の資質能力

1. はじめに

平成30年、日本の幼児教育界では、状況を見据えて「子どもが主体的に生きていく力」の育成を検討し、大きな改訂を行っている。ポイントとなるのは、①0, 1, 2歳児の保育の充実、②子どもたちが身につけるべき資質・能力の3本の柱の明確化、③非認知能力の重要性、④卒園までに育みたい五領域に基づく「10の姿」の具体化、⑤「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)の充実など、子どもたちが社会において自立して生きるため、遊びや生活を通して「自ら学ぶ姿を支えること」が保育者に求められている。

人は人によって育てられ人格形成がなされていくが、まずその土台は、領域『人間関係』に掲げる「人に親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を育成する」ことにあると考える。もとをたどれば、保護者や保育者とのアタッチメント(愛着関係)や基本的信頼感、他者との深いかわりへの欲求を満たすことが大切である。乳児期の「身近な人と気持ちが通じ合う」安心感が、人とかかわる力の根幹となるのである。保育者の役割は、乳幼児のちょっとした表情やしぐさから気持ちを読み取り、寄り添ったり、共感したり、更には保護者と連携し調和を図っていくことなどであり、その資質・能力の重要性は計り知れない。

しかし現在、一般的な学生の様子を見ると、便利な生活で実体験が少なく、スマホの影響からか、落ち着いて深く考えない、面と向かったコミュニケーションや、感動を表現するのが苦手など、保育者の資質としても懸念される事項が浮かび上がる。

この動向を鑑み、保育者養成には、保育者自身が学び成長することや、仲間と共に学び合うことが重要になってくる。上記改訂の⑤に示すアクティブラーニング(他者を通じた学び)が、学生にこそ必要なのである。すなわち、教育・保育実習の実体験や子どもの心理発達を深く理解して発見したことを表出することで自己を知り、全員で共有しながら課題に気づき、プロセスを踏みながら学びを深めていく営みが必須だと考える。

本研究では、保育者養成において、学生同士の学び合いの授業方法として効果的な、『ラベル』(3×8cm程度の紙片、カードや付箋が用いられることもある)が示唆を与えるものと考え、実践報告をする。ここで言う『ラベル』とは、広義には「ある目

的意識をもって、情報または知識の交流や発信を意図的に行う時、頭脳に観念されたひとまとまりの認識内容を物理的に表記したもの」であり、狭義には「情報ではなく、知識を運ぶ媒体である」と定義づけておく¹⁾。そして本授業での『ラベル活用』の実際を整理し、学生の作品とアンケートから分析・考察し、その意義と可能性を探っていく。

2. 「保育内容『人間関係』の理論と方法」授業の実際

本授業は、幼稚園教諭免許及び保育士資格取得のための必須科目であり、理論と演習を含むものである。また、学生にとって初めての「幼稚園教育実習Ⅰ」を授業期間に挟み、実地と共に学ぶスタンスで、恵まれた時期に開講されている。

1. 授業のねらい

- ①乳幼児期の発達において、人とかかわる力の育ちの重要性を知る。
- ②領域『人間関係』が目指すものを捉え、幼児期にふさわしい遊びや生活について考える。
- ③事例やDVDにより、幼児の発達と保育を実際に学ぶ。
- ④手遊び・絵本・遊びやゲーム等、教材研究を行い、保育内容を深めていく。
- ⑤ラベル新聞やグループ活動を通して、仲間と共に学ぶ。

2. 毎回の授業の流れ

オープニングタイム：手遊び〔学生が担当〕／
ラベル新聞 発表〔指導教員〕
講義：『人間関係』の授業内容
クロージングタイム：感想ラベル 書き〔学生個人で〕

*授業の最後に、学生個人が感想ラベルを書き、指導教員が全員のラベルを図解にまとめ、次の授業の最初にラベル新聞として発表する。内容を振り返り、興味深い意見に注目したり、補足したりする。

3. 授業の実際

(平成29年度前期幼児保育1年 保育内容『人間関係』の理論と方法)

No.	内 容	感想ラベルのテーマ
1	オリエンテーション、ラベルの活用法 幼児教育の現代的課題と人間関係	私が人とのかかわりで大切にしていること
2	人間と人間関係、愛や絆の形成 人間らしい脳を育てる	現代の子どもの愛や絆の形成について、どう思うか
3	0～1歳児の発達過程と人間関係を育て る保育内容、愛着形成、信頼関係	0～2歳未満の子どもの育ちに大切なことは何か
4	2歳児の発達過程と人間関係の育ち 受容と共感、秩序の敏感期	2歳の子どもの発達とかかわりについて学んだこと
5	3歳児前半 DVD 視聴「やりたい、でも できない」保育者とのかかわり	初の集団生活に入る3歳児人とのかかわりで学んだ事
6	3歳児後半 DVD 視聴「やりたい、でも できない」友だちとのかかわり	3歳児、友だちとのかかわりから学んだこと
7	4歳児前半 DVD 視聴「先生とともに」 子どもの遊びと人間関係	4歳児前半、子どもの姿から学んだこと
8	4歳児後半 DVD 視聴「先生とともに」 遊びの中で生まれる人間関係	4歳児後半、子どもの姿から学んだこと
	幼稚園教育実習Ⅰ期間 (2クラス各期間に実習を行う)	
9	実習体験エピソード 発達の壁をのりこえる	人間関係の育ちについて、学んだこと
10	保育の目標と領域『人間関係』 人間関係を育てる絵本など指導計画案	領域『人間関係』で学んだことは何か
11	5歳児前半 DVD 視聴「育ちあい学びあ う生活の中で」5歳児の人とのかかわり	5歳児前半、子どもの姿から学んだこと
12	5歳児後半 DVD 視聴「育ちあい学びあ う生活の中で」役割、思いやり、協同な ど	5歳児の人間関係の育ちから学んだこと
13	人間関係と保育者の様々な役割 お約束について	保育者の役割で学んだことは何か
14	人間関係を育てる模擬保育 絵本、紙芝居、エプロンシアターなど	模擬保育を行った学生に対し、全員がコメントを書く
15	まとめ <u>学びのプロセス図解作成</u> 自分自身の保育観をまとめる	「人とかかわる力」を育てる保育者の役割とは

4. 学生個々人が、授業の最後を書く『感想ラベル』 について

本授業で使用しているラベルは、3枚1つづりの複写式ラベルである。授業回数、日付、学籍番号、氏名は、1行目に明記する。後の3行に今日の授業のテーマに対する自分の考えを端的に書く。最初は時間をとり、ノートに下書きをして、3枚に複写されるためボールペンで丁寧に書く感覚に慣れていくようにした。1枚目の黄色のラベルは、教員に提出。2枚目のピンクのラベルは、自分のノートに貼る。3枚目の白のシールラベルは、授業の最終日に『学びのプロセス図解』を作成するために各自保管しておく。ラベルを書く時間にはノートや教科書を広げ、懸命に考えている姿や、「難しい」「何を書いている

か分からない」と悩む姿も見られた。テーマは基本的には、決めておくが、内容によっては「強く感じた事を書きたい」という学生の主体性を重んじた。

集められた感想ラベルは、指導教員が読み授業内容の反応を見る。様々な感想が実感できるが、ただ言葉を合わせてまとめているもの、自分の中でかみ砕いて自分の言葉で表現しているものなど内容は様々である。(図1. 記入されたラベルの実物写真)

5. 毎回の授業の最初に振り返る『ラベル新聞』 について

本授業では、教員がラベル新聞を作成した。約50名の学生のラベルを一覧できる形に図解化していく。何を言いたいのか読み取り、分類し、表題をつけて

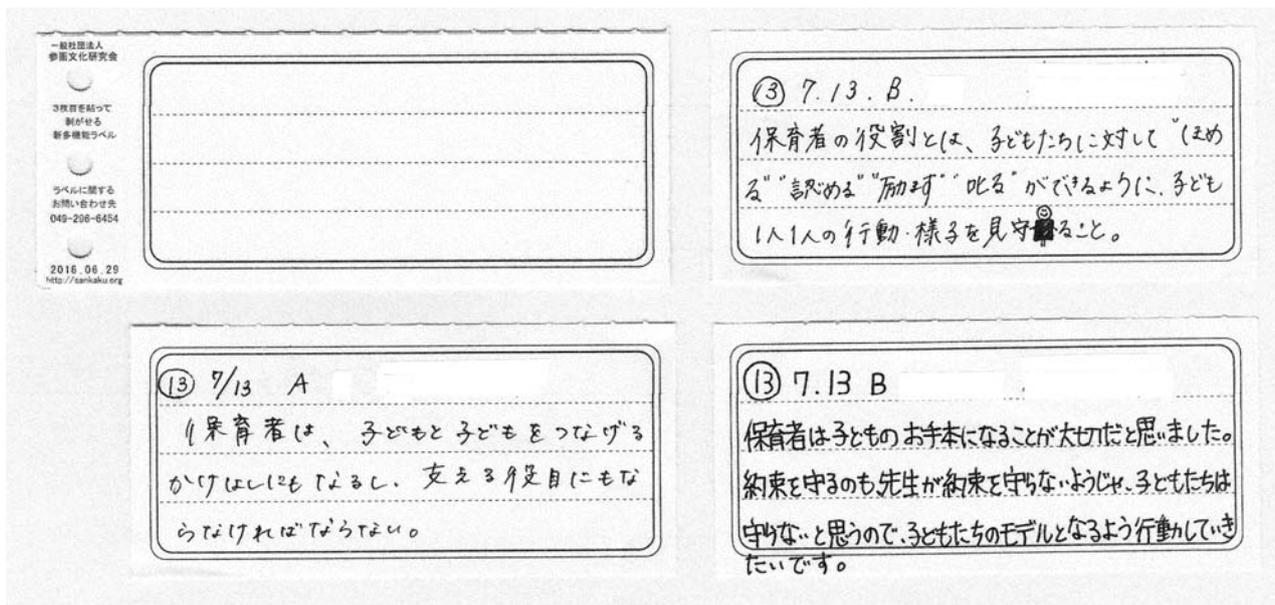


図1. 記入されたラベルの実物写真

いく。1つのテーマでも、子ども理解の前提や実態、具体的な手段や心構え、保育者の役割など、色々な視点から感想が出てくる。出来るだけ、学生の気づきを大切に関連づけていく。A3の用紙2枚に渡りラベルを貼り付けて作成し、合わせたものを縮小してA3用紙1枚で一覧できるようにする。授業では人数分印刷し、クラス全体の感想の集約として一人ひとりに配布する。(図2. ラベル新聞)

6. 授業の最終日に個人でつくる『学びのプロセス図解』について

本授業では、毎回の手遊びを経験し、教科書とDVDで0～5歳児の発達過程と人とかかわる力の育ちを学び、実習経験、指導計画案作成、模擬保育から学ぶという一連の繋がりをもっている。これまで書きためた感想ラベルを「学びのプロセス図解」として個人でまとめていく。

学びのプロセス図解作成の手順

- ①学生が自身のラベルを全て用意する。
- ②一枚一枚をよく読み、重要なところに線を引き、紙面に並べる。
- ③繋がりが深いものは近くに置くなど、ラベルを動かしながらまとまりを作る。
- ④分類したまとまりのおさまりのいい位置を見つける。
- ⑤位置が決まったら、上の方に表題をつけたりして、ラベルを貼る。
- ⑥表題を文章で書き、ひらめいた事・気づいた事な

どを付け加え、矢印などをつけ、関連づける。

- ⑦自分の考える結論を文章でまとめる。
- ⑧イメージに合った絵やデザインを加え、作品化する。

この手順で、個人が毎日に得た学びを振り返り、自分を見つめ直し、そのプロセスをたどって結論を導く様子は、真剣に難題に向き合っており、学生が変わっていく姿を見るようである。(図3. 学びのプロセス図解 (A) 学生の作品)

3. 『感想ラベル』・『ラベル新聞』アンケート集計結果

ラベルを活用した本授業形態は、教員自身がラベルで思考し図解を作ってきた長年の経験をもとに授業に取り入れてきた。平成21年から8年間、学生の実態に合うように試行錯誤してきた。今回、平成29年度『人間関係』の13回目の授業時に、幼児保育学科の1年生のうち87名に無記名で以下の6つの設問によるアンケートを行い、ラベルを書くことについてどう思うかを聞き、集計した。

- ①ラベルを書くことをどう思いますか？
最初から好き／段々抵抗がなくなった／どちらとも言えない／段々抵抗が出てきた／今も好きではない
- ②ラベル新聞で友達のラベルを読むことは？
最初から好き／段々抵抗がなくなった／どちらとも言えない／段々抵抗が出てきた／今も好き

ではない
それはどうしてですか？
()

③ラベルはテーマに沿って書くことが出来ましたか？

出来た 出来なかった
よく考えて書けたテーマに○（複数解答可）

④ラベル新聞がどう活用されればもっと良かったと思いますか？

今後の可能性にアイデアをください。

⑤ラベル新聞を学生が作った方がいいと思いますか？

⑥保育内容『人間関係』理論と方法に期待することは何ですか？

『ラベルを書くこと』が最初から好きであると答えた学生は全体の8%，段々抵抗がなくなってきた

学生が一番多く54%，どちらとも言えないが26%，段々抵抗が出てきたが約7%，今も好きではないが約5%であった。

感想ラベル書きを好意的に受け止めているのは、「最初から好き」と「段々抵抗がなくなってきた」を合わせて62%である。自由記入欄に「自分のその日、考えたことをまとめることで、子どもの理解を深めることが出来た」とある。

一方、『ラベル新聞を読むこと』については、最初から好き46%，段々抵抗がなくなってきた36%，どちらとも言えない16%で、まだなじめない学生が1%である。ラベル新聞を好意的に受け止めているのは全体の82%である。

ラベル新聞を読むことが初めから好き（46%）で、ラベル新聞を読むことがだんだん好きになった（36%）と答えた学生にその理由を聞き、分析すると以下ようになる。

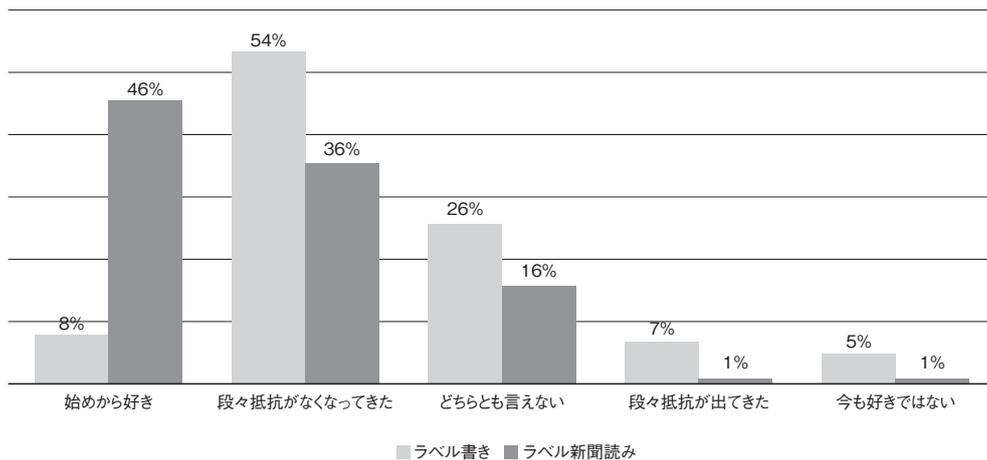


図4. 『ラベル書き』と『ラベル新聞読み』の学生の受け止め方集計

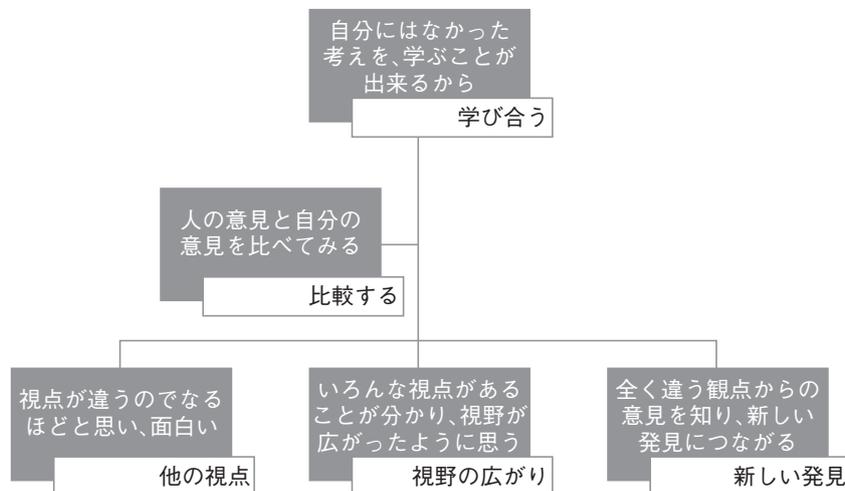


図5. ラベル新聞を読むことについて（最初から好き）

次に、感想ラベルを書くことに、段々抵抗がなくなってきた中で、ラベル新聞を読むことが好きになった理由は、少し違ったニュアンスであった。

これらを対比させると、図5からは、46%の学生が、大学での学びに入る最初の段階から学ぶ姿勢をもっており、他者の意見と比較し「他の視点」「視野の広がり」「新しい発見」に気づき興味深く学び取っている事がうかがえる。

また、図6の36%の学生が、最初は戸惑いを感じながらも「学びの楽しさ」に気づき、「興味が深ま

り」「意見の共有をとて面白い経験」だと思い、①参考にする②共感できる③注意点の理解、に気づいており、抵抗が無くなったことで知識を超えて、精神として受け止めているとも捉えられる。さらには、「読んでいくうちに、『この人は保育をこのように考えているんだな』とクラスメイトについての理解も深まった。」と記述されていた。こうして、他者の保育についての考え方を知り、学ぶ関係作りが出来、独りよがりではなく、子どもを多方面から捉えることの重要性に気づいていくと考える。

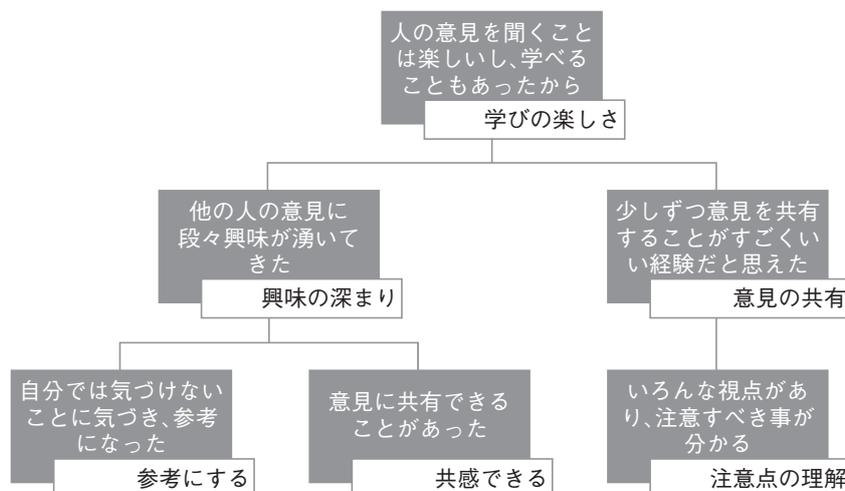


図6. ラベル新聞を読むことについて（段々抵抗がなくなってきた）

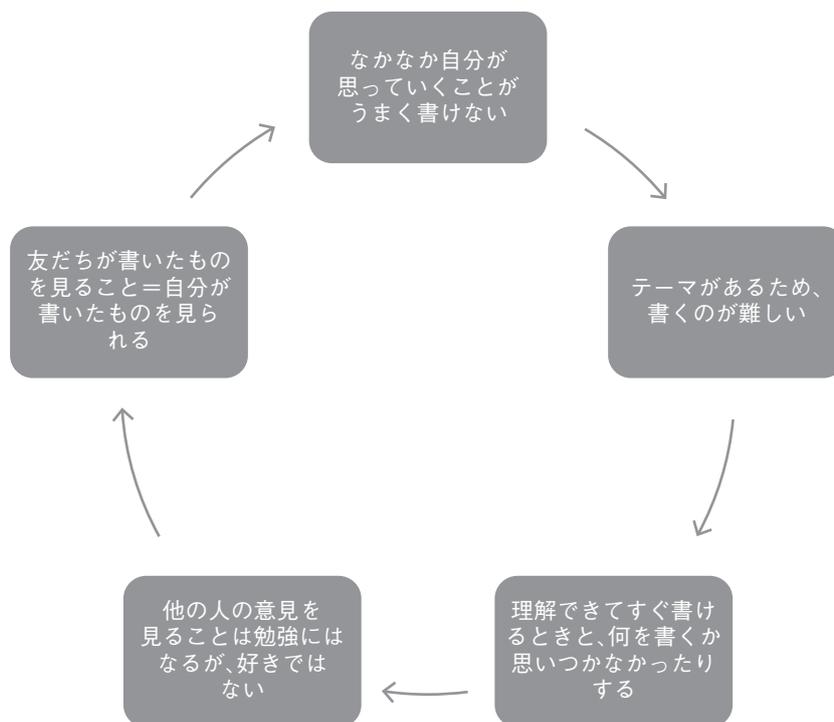


図7. ラベル新聞を読むことについて（良し悪しどちらとも言えない）

全体の18%の学生が、ラベル活用の意義を感じて来られなかったようである。「うまく書けない」など、感想ラベルを書く段階の戸惑いがうかがえる。自分の考えを、短くポイントをついてまとめるのは難しい。それは、自分自身との対話である。保育現場では言葉で表現することや、自分の書いたものを見てもらう機会は多々あるので、苦手意識はあるかもしれないが、やっていくうちに慣れ、力をつけることが出来る。この学生には、思っていることをラベルに表出する繰り返しの中で、目の付け所をつかみ、主体的・対話的に保育を学ぶ面白さがつかめるように、教員の方で働き掛けるなどし、今後の課題とする。

4. 『学びのプロセス図解』による教育的効果

ラベル活用法の効果として、アンケートの自由記述に「前期を通して感じたことや学んだことを振り返ることが出来る」という回答があった。まさに、「学びのプロセス図解」を作成することは、自分自身が記述したラベルをもとに、考えを整理し、言葉とイメージで保育観を構築していくものである。また、自分の成長を客観的に見直す貴重な経験である。学生にとってラベルを操作して図解を作るのは初めてであるが、毎回の授業で「ラベル新聞」を見ているので、「教員が作っているようにやれば良い」という自信があり取りかかりがスムーズであった。

図解作成の分類の仕方は、ラベルワークの理論から以下に分けられる。^{註2}

I類：同質性＝意味内容が同じか似ているラベルを集める<似たものモード> II類：論理性＝原因と結果の関係にあるラベルを集める<繋がりモード>

III類：物語性＝物語・エピソードになりそうなラベルを集める<お話モード>

これらの分類をもとに、いざ作成してみると学生から困難点が上がってくる。その原因は、自分の書いたラベルの本質が見えないことにある。授業内容の理解不足に起因し、ラベルにエッセンスを書けていなかったことで「自分が何を書いているか意味が分からない。」と悩む学生もいる。その一方で、「1枚のラベルに意味することが2つあるので、切って分けたい。」(一義化の法則)、「新しくラベルを加えたい。」(新ラベルを差し入れる)など、技法やルールなどの発見も学生自ら導き出され、真剣な姿が見受けられる。

前掲図3の学びのプロセス図解(A)は、「人とかかわる力ってどんな力だろう？私はどうやって人とかかわっている？」「それが出来るようになったのはなぜ？」と、問いかけるところから出発し、0歳からの『安心』を与えるような「人的環境」と「成長発達ステップ」を表している(上記のII類に分類)。(図8. 学びのプロセス図解(B))

図8のプロセス図解(B)は、鮮やかな朝顔が伸びていくイメージで葉っぱの上に要素を出し意味が同じものを分類している。保育者の心構えをじょうろで客観的に表現し、絵から保育者の役割を訴える力がある(I類)。(図9. 学びのプロセス図解(C))

図9のプロセス図解(C)は、「子どもたちのかかえる不安や葛藤は、まるで運動会の障害物競走のようだ。その中で保育者の存在はとても重要で、観察・導き・援助・振り返り・ルールを守るなど、子どもが経験することを個々人に合わせ、先走らず援助すること。」だと結論づけた(III類)。このように、子どもの日々の懸命な園生活に保育者がどう援助していくか、振り返って学ぶラベル活用によって自分なりにつかみとれたことは、賞賛に値するのではないか。

このことからラベル活用は、1枚1枚をよく読み、何が言いたいのか、本質は何かを読み解く営みであり、保育現場で子どもの背景を理解し気持ちを汲み取りながら、共感したり、代弁したりする保育につながると考える。文献には「ラベルワークをする人が1枚1枚のラベルにその都度意味を与えなければならないが、ルールに適合して表現されたラベルの場合は、最初から1枚1枚のラベルは1つひとつの自己主張をもって『何が言いたいのか』その声に聞き入る姿勢でラベルワークを進めなければならない印象を受ける。何人もそのラベルが主張する「知識」の内容を勝手にねじ曲げることはできないという実感がある。」^{註3}と述べられている。ラベルの声を聞くことは子どもの心の声を聞く訓練になる。1枚のラベルも無視せず、全て生かすことが大事である。

さらに、「ラベルワークに伴う『感覚』はきわめて特異であり、ラベル全部の声を全て生かそうとすると、ラベルがまるで操作者の狭い思考の枠組みに『ぶつかり合ってその変革を求めている』と感じる。

その結果、ラベルワークを通して、1つひとつのラベル全てに耳を傾けた、より客観的な思考が実現されやすくなる。これは、「ラベル」を「子ども」に変換して捉えると、保育者の狭い思考に偏らず、子ども主体の保育への思考の転換につながるのではないだろうか。現場において子どもが遊びや行事を展開していく中で、全体を進めることが優先で1人1人が見えなかったりすることがある。しかし、子どもがそれなりの重みや流れのもとでそうしたいということを理解し、そこで動いている子どもの気持ちに「共感する」「受け止める」。さらに、経験を追って「探ってみる」など、子どもの視点に立って考え援助する必要がある。この深い共感的・分析的、ラベル思考型の頭の働かせ方が必要なのではないかと考える。

5. 『ラベル活用』の今後の課題

1つ目は、毎回の授業の感想ラベルを書く時、同じようなことばかり書いている傾向の学生がいる。その時々本人の意識の問題であるが、学びのプロセス図解を作る時に困ることになり、その時初めてラベルの質に直面する。今後、自分が書いた以前のラベルを読むことによって、ラベルの質に繋がる文章力・表現力が身につけられるよう、注意していきたい。それが、書くことや人に見られることの苦手意識を克服することに繋がることを期待している。

2つ目は、ラベル新聞を学生の手で作るかどうかということである。以前最初の3年くらいは学生がラベル新聞作りを担当していた。ラベルの選出や内容の振り返りや発表の仕方としては、効果的ではなかったのを止めてしまった。今回のアンケートでは2人の学生が、手法を教えてもらえば担当して良いという意見であった。今後の道を模索したい。

3つ目は、アンケートで「人それぞれの価値観によって違うのでたくさん自分の思いを出して、最終的にみんなで結論が出たら良くなる」という記述があった。力作である学びのプロセス図解を教員一人で評価しているが、学生同士で学びのプロセス図解を用い、「発表し合い学び合う」、保育の専門性の高い『保育観』構築の一助になるように、機会を設けていきたいと考えている。

注

- 1) 林 義樹編『『ラベルワークを進める参画型教育』学び手の発想を活かすアクティブラーニングの理論・方法・実践』ナカニシヤ出版 2015より p.226～ラベルの定義
- 2) 同文献 1～3類の固有の操作の比較／ラベル図考の5モードより
- 3) 同文献 p.229～ラベルの記述ルールとその効果

参考文献

- ・林 義樹編『『ラベルワークを進める参画型教育』学び手の発想を活かすアクティブラーニングの理論・方法・実践』ナカニシヤ出版 2015
- ・ベネッセ教育総合研究所 荒川悦子編「これからの幼児教育 2017春 ニッポンの幼児教育はどう変わるのか? 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『認定こども園教育・保育要領』改訂の方向とポイント」(汐見稔幸・無藤隆・大豆生田啓友)
- ・徳安 敦編著「生活事例からはじめる 保育内容『人間関係』」青踏社 2013
- ・相馬晴秋・おおえだけいこ編「2018年度版 3つの指針・要領 対照表」